



いちれんたくしょう 親子は一蓮托生

災害時、子どもは大人が思っているほど、大人ほど深刻な事態には陥っていないものです。避難所で健気に遊んでいる子どもたちの姿があります。むしろ、親や教師といった自分を守ってくれるはずの大人から影響を大きく受けているのです。親や教師の不安定な態度を子どもが最も恐れるのです。子どもは身近な大人の様子をうかがい、その様子から状況の深刻さを想像するものです。つまり大人と子どもは一蓮托生の関係の中に存在しています。子どもは、大人が自分のことを本当に守ろうとしてくれているか、冷静に見極める力を本能的に持っているのです。大人

人がたとえ強がりを見せてでも、子どもに学校が安全で楽しい場所であると伝えてやることで、落ち着いた生活ができるのです。大人に守られた世界で生きているという感覚を失うことがなければ、子どもは大人以上に健全に生きていくことができます。

「コロナ時代の教育を考える」 武庫川女子大学 倉石哲也教授

子どもが不安になるのは、親が不安を感じているからです。「お母さんが付いているから、大丈夫だよ!」と言って、笑顔でギュッとハグしてあげると子どもは一番安心するのです。

対人関係がうまく築けない子 急増! ~全国調査~

原因は、「忍耐力」「コミュニケーション力不足」により、自分の気持ちをうまく表現できないため暴力に走る。暴力に発展するまでもないが、「ちょっとしたトラブルからすぐパニックになる子」、「自分の気持ちを相手に伝えることができない子」、「友だちとうまくやっていけない子」が増えています。自分の気持ちや考えが相手に伝えることができず、自分の心の奥に押し込んでしまったり、逆に暴力やいじめなどの陰湿な攻撃行動を企てたりする。友だちがほしいという気持ちは強いのに、素直に表現できず、相手の気持ちを勝手に解釈してしまい、葛藤を抱いて、すぐに傷ついてしまいます。

本来、健全な対人関係は、親子関係、兄弟関係、仲間関係、教師との関係、地域の人々との関係などさまざまな対人関係の中で教えられ経験を通して育まれるものですが、今の子どもたちには、対人関係が希薄で、自分たちでトラブルを解決する力が十分育まれていないのです。

友だちにすぐ暴力をふるう子に「やさしくしなさい」、すぐ泣く子に「泣いてはダメ」と一方的に叱っても、その子は次から「やさしくしよう」とか「泣くのはよそう」とは素直に思わないのです。

何度言ってもできない子の3つのタイプ

◎タイプ1~どうすればよいか知識がない

「やさしくしなさい」と叱られても、どのようにふるまえば「やさしい」行動なのか分からなければ、その行動は出てこない。(例:「だいじょうぶ?」と声をかけてあげる。) こんな子には具体的な行動を具体的な知識として教えてあげることが必要です。

◎タイプ2~知識はあるが行動ができない

「ごめんね」と謝ればいいのにその勇気はない。自信がない、恥ずかしい、といった具合に意欲や気持ちのところでもう一歩行動にできない。「さあ、やりなさい」と背中を押して、「よく〇〇やったね」と声をかけ、できそうなチャンスを与えてほめてやる関わりを増やす必要があります。

◎タイプ3~知識もあり行動もできるが状況把握ができない

知識もあり、行動もできるのに対人関係でトラブルが多い子。例えば、友だちが何かもめている最中に「仲間に入れて」と声をかけても彼らは聞いていない。そんなとき、ちゃんと『入れて』と言ったのにみんなは自分を無視した。と先生に訴えてくるのは、このタイプの子です。他の人の気持ちに気付かせる対応が必要です。 ***集団の中で、このような経験を積むことができるのが「こども園」です。**

11月13日(月)から 11月17日(金)までの予定

- 13日(月) 歯磨き指導 (1~2歳児)
- 14日(火) 発表会総練習 (3歳児)
- 15日(水) 発表会 (3歳児)
- 16日(木) 発表会総練習 (4歳児)
- 17日(金) 発表会 (4歳児)



3歳児以上の発表会が来週から始まります。練習を見ていると、日に日に上達する姿に感動します。副園長が泣くのも分かります。